

令和6年度 学力向上推進計画 1

学校種	小	学校名	砥部町 立 砥部小 学校
学校番号	89	校長氏名	山下 吉信
期間	R6.4~R6.9	学力向上推進主任氏名	小笠原 愛佳

Plan 計画

1		<p>【現在の子供の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どの教科においても知識・技能などの基礎的な内容の定着に個人差がある。 ○ 話し合い活動において「伝えること」「聞くこと」のみになりがちで、双方向の対話になりにくい。 ○ 読書を好む児童は多いが、自主的な読書の習慣が身に付いていない児童が多い。 	
	➡	<p>具体的な取組</p> <p>ア ミニテストやチャレンジシート、EILS、ドリル学習用アプリを月6回以上活用し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>イ 朝の会や帰りの会、国語科の学習教材を有効に活用して対話スキルを身に付けさせるために「対話の時間」を設定する。(週1回程度)。</p> <p>ウ みきゃん通帳の登録を徹底し、記録を残す。また、TOBE デジやeスタを活用するなど読書活動の時間を確保して読書の充実を図る。(月2回程度)</p>	

Do 実践

全教職員による共通実践

Check 評価

3		<p>【成果○と課題●】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学級の工夫により、朝の会のスピーチや道徳の時間、話し合いの場面での活用など「対話の時間」を設定することで、自分の意見を伝えたり、相手の話を聞いたりできる児童が増えた。まだ十分取り組んでいない学級もあるので、継続していきたい。 ○ 学年で統一したプリントやすきま時間を活用したアプリの活用は個々の学習の達成度を知る指標になっている。しかし、個人差が大きいため実施方法の工夫が必要である。 ● みきゃん通帳の活用は2割程度とかなり低い。みきゃん通帳の登録を徹底し、読書時間の確保・充実につなげたい。 ● 対話ではなく、まだ「伝え合い」に終わっているので、聞いたことを受けて返すなど双方向での対話(話すこと・聞くこと)になるような工夫が必要である。
----------	--	---

Action 改善案(課題をより明確にし、取組や評価方法の検証・改善)

4	<ul style="list-style-type: none"> ★ICTの有効な活用場面を見だし、児童が進んで活用できるような手立ての工夫が必要である。 ★みきゃん通帳の活用を促し、ランキングや感想を読み合うなどの活動を通して読書への関心を高める。 	→ 次サイクルへ
----------	---	----------